

Hawaiiana (ハワイ風物誌)

森 戸 由 久

はじめに

筆者がハワイのイースト・ウエストセンターで1974年から約一年間英語教材開発のプロジェクトに従事して以来、ハワイを14回訪問した。この間、「社会言語学的に見たハワイ」、「ハワイのことばと文化」、「ハワイのことばと文化ノート」等の小論をまとめてきた。2002年に半年イーストウエストセンターで在外研究をする機会をあたえていただき、帰国後、ハワイについて総合的にまとめてみたものが本論である。

目次	1	ハワイの人々と言語
	2	ハワイ日系人
	3	ハワイの英語
	4	ハワイ大学
	5	イースト・ウエストセンター
	6	ワイキキ
	7	ハワイと相撲
	8	ハワイの食文化

9 ハワイの動植物

10 ハワイの風俗と習慣

1 ハワイの人々と言語

ハワイについての考古学的な資料はビショップ博物館に保存されている。一般的には4世紀から8世紀頃、ハワイ諸島にポリネシア人が住み始めたと考えられている。彼らは航海術にすぐれ、漁業を生業としていたといわれている。常食はタロー芋（ハワイ語でkaro）であったが、現在では米を好む。太平洋の島々には石の像を作る種族がいたようである。また、ハワイ諸島に小人族が住んでいたという伝説がある。カメハメハ一世はハワイ島を治めてから1791年に全ハワイを統一してハワイ王朝をオアフ島に移した。便宜的に第一期はカメハメハ一世からカメハメハ5世、ルナリロまでで、1782年から1872年までで、第二期はカラカウアからリリウオカラニまでで、1873年から1891年までである。

ハワイ語はポリネシア語に属す言語で母音は a, e, i, o, u の5つである。

子音は h, k, l, m, n, p, w の7つである。glottal stopがある。子音が少ないのでChristmasはKilikimakaとなる。

語順は動詞＋主語＋目的語の構文をとる。

Ua aloha au iaia. (Love I her.)

Noho 'oia ma Honolulu. (Lives she in Honolulu.)

自分が支配できるものにたいして ka'u, 支配できないものにたいして ko'uを使う。愛着をもつものにku'uを使う。

ko'u keiki (my child) ko'u kupuna (my grandparent)

ku'u ipo (my sweetheart)

次の単語はマレーポリネシア語群で同系である。

Malay lima (5) Hawaiian lima (5)

Fijian lima (5) Palau im (5)

Samoaan	lima (5)	Maori	rima (5)
---------	----------	-------	----------

Malay	mata (eye)	Hawaiian	maka (eye)
Fijian	mata (eye)	Palau	mata (eye)
Samoaan	mata (eye)	Maori	mata (eye)

Malay	ayer (water)	Hawaiian	wai (water)
Fijian	wai (water)	Palau	wai (water)
Samoaan	wai (water)	Maori	wai (water)

2 ハワイの日系人

日本人がハワイに渡ったのは明治元年（1868年）で、その数は153人であった。1885年から1894年までは26回、29,139人で官約移民であった。1898年から1900年まで46,258人で、私的移民であった。1901年から1908年までは自由移民で、68,326人だった。1908年にアメリカ合衆国で排日移民法が成立して移民が不可能になった。ハワイに渡った移民はハワイ島でサトウキビ農業に従事した。その後、オアフ島がハワイ諸島の中心であったためにオアフ島で生活する人が多くなっていった。アロハシャツ、またはハワイアンシャツは日系人が考案したものである。mumu（ムームー）はキリスト教の宣教師が女性の胸を隠させるために考案したものといわれている。nisei（日系二世）やkibei（帰米）などの日本語が英語に入った。kibeiは日本で教育を受けてアメリカに帰国した日系米人である。日系一世は英語がほとんどわからず、日系二世は英語も日本語も話せるが英語の方が強かったが、日系三世は英語中心で、日本語がほとんど話せない。現在は日系五世や日系六世が育っている。日系上院議員としてDaniel Inouye やSpark Matsunagaが有名である。日系で初めてのハワイ州知事はGeorge Ariyoshiであった。彼は1974年から1978年まで務めた。スポーツではボクシングのMarino, Fuji, 水泳のKonno, プロ野球のYonamine やMiyamotoは日本では知られている。なお、1941年12月7日のパール・ハーバ

一事件の後、多くの日系人はヨーロッパ前線に参加して命を落とした。特に442部隊のことは話題になる。

3 ハワイの英語

ハワイで話されている英語はピジン英語と言われることがあるが、今日では標準的な英語を聞くことが多い。発音は標準的であるが、抑揚や語句にはハワイ特有のものがある。

- 1) all right よりも Okay または OK がよく使われる。
- 2) 文尾にyaを使うことが多い。
- 3) ハワイ語が英語の中で使われるが、単語だけのものがほとんどである。

Please kokua. (Please cooperate.)

Pupu will be served. (Snacks will be served.)

Wiki-Wiki bus (trolley at Honolulu International Airport) wiki (fast)

Your room is mauka side. (Your room faces the mountains.)

Your room is makai side. (Your room faces the ocean.)

- 4) 看板や表示にハワイ語が使われている場合がある。

Kane (male) Wahine (female) これらの表示はトイレで見かける。

- 5) ハワイでのみ使われている表現がある。

You have chicken skin. (You have gooseflesh.) chicken skinは「鳥肌」の訳。

It's more better. (It's much better.)

Stink eye! (Ugly!)

She got double eyes. (She got plenty of mascara.)

Howzit? (How is everything?)

Broke the mouth. (Delicious!)

He likes beef. (He likes fighting.)

It's liquid sunshine. (It's raining while the sun is shining.) 「天気雨」

- 6) よく使われている英語の中のハワイ語を列挙する。

aloha	「あいさつ語」
Haole	「白人」(人種差別的なことばでCaucasianともいう)
hula	「フラ」
kane	「男」
keiki	「子供」
lanai	「ベランダ」
laulau	「ラウラウ」 (バナナの葉で豚肉や魚をくるんで蒸し焼きにしたもの)
lei	「レイ」
luau	「ルアウ」(ハワイ式宴会)
lomilomi	「ハワイ式マッサージ」
mahalo	「ありがとう」
mahimahi	「しいら」(白身の魚)
mumu	「ムームー」
poi	「ポイ」(タロー芋の澱粉をねったもの)
pupu	「スナック」
ukulele	「ウクレレ」(もとの意味は「のみ」)
wahine	「女」

- 7) ハワイの人々の英語の発音はよくなっていてピジン英語を聞く機会は少ない。da kineのようなbroken Englishは聞かれなくなっている。

4 ハワイ大学

ハワイ大学の創立は1907年で、オアフ島のマノア校が主キャンパスで、他にハワイ島のヒロ校がある。ハワイ大学は総合大学で、2万人の学生が学んでいる。特にハワイおよび太平洋の文化や自然に関する研究、日本や韓国の言語文化の研究が盛んである。図書館はハミルトン図書館とシンクレア図書館がある。ハワイ大学には1933年に建てられた創立者の門があり、向って右側の門にはAbove all nations is humanity. というハワイ語の文が刻まれている。東アジ

ア言語文学学部はムーアホールにある。

キャンパスにはParadise Palms Cafeなどのカフェテリアが3か所あり、弁当やサンドイッチを買えるスタンドは6か所ある。キャンパスの中央に位置するキャンパスセンターには書店やカフェテリアがある。ハワイ大学のニックネームはRainbow University である。

5 イースト・ウエストセンター

イースト・ウエストセンターは国立の研究所として1960年にハワイ大学に隣接する敷地に設立された。その目的は東西の文化の懸け橋となる研究所で、異文化の相互理解をモットーとした。はじめは文化研究所、コミュニケーション研究所、人口研究所、経済研究所に分かれていたが、1970年代のニクソン大統領時代になって 財源カットを受け、研究の規模を縮小した。研究所には主として大学院生のための学費助成と専門の職に就いている人の研修の2つのプログラムがある。対象になる研究員はアメリカ合衆国とアジア諸国の人々である。アフリカの人も稀に参加することがある。研究所の高等研究員は大学院生の指導と研修のために参加している研究員を指導する。大学院生は研究所のプログラムに参加してハワイ大学の大学院に通うことになる。助成を受けている大学院生は500人以上で、中国からの留学生が目立っている。

研究所の本部はBurns Hall (バーンズホール) で、ゲストハウスのリンカーンホール、寮として高層のハレマノア、低層のハレクアヒネがある。現在、研究所のプログラムが経済、経営、ならびにマスコミの分野にのみ集中しているのは効率性を重んじるアメリカの傾向を示している。

6 ワイキキ

1960年代にはアメリカの軍隊からの収入がハワイの財源であった。ハワイには US Pacific Command (アメリカ太平洋総軍司令部) がある。現在では観光が第一である。ワイキキのホテルと商店の収入がハワイを支えている。ホテルは等級化されて観光客の需要に応えている。山側よりも海側、15階より上の階

が高価な部屋である。第一ランクのホテルはハレクラニ、ロイヤルハワイアン、シェラトンモアナサーフライダー、ハイアットリージェンシーである。第二ランクのホテルにシェラトンワイキキとヒルトンがある。バスやトロリーもワイキキを中心に動いている。買い物となると観光客にはワイキキよりもアラモアナセンターの方が人気がある。ワイキキの海岸にサーフィンで有名だったDukeの銅像が立っている。カラカウア通りにはカラカウア大王の銅像が立っている。ワイキキ海岸の白砂は波に流されるので10年に1度位face lifting (砂まき) をする。この砂はマウイ島から運ばれる。

7 ハワイと相撲

ハワイ出身の力士として高見山（マウイ島出身）と小錦，曙，武蔵丸（いずれもオアフ島出身）がいる。ハワイには相撲の伝統があるのである。ハワイ大学の近くにモイリリという地名があって、そこに開拓者の石碑が建っている。柏原きはちと柏原しかと刻まれている。柏原きはちさんは大阪相撲の出身でしこ名を千田川といった。最高位は前頭5枚目だった。彼は庭に土俵を作り、男の子に相撲を教えた。その後、相撲大会を開催してハワイの地で相撲が広まった。きはちさんの長男のハンスさんは相撲が強く、ハワイ相撲のチャンピオンだった。後に警察署長になった。ハンスさんの弟は日本で相撲取りになったが出世しなかったという。このようにハワイの相撲はモイリリから始まったのである。このことはハンスさんの息子のSidney Kashiwabara の*Life of Hans Kashiwabara* に詳しい。なお、柏原きはちさんは山口県の出身であるという。

8 ハワイの食文化

ハワイの人々の伝統的な食べ物はpoi（ポイ）である。最近ではlocomoco（ロコモコ）というプレートランチが人気がある。かつてOkazuyaといっておむすびなどの日本の食べ物やラウラウなどのハワイの食べ物を売るお店があったが1980年代には姿を消した。また、Omochiyaといって大福を売るお店があったが今は見られない。おむすびはmusubiの名で2ドルでワイキキのコンビ

二で買える。にぎり寿司よりやや大きめのごはんにハムを乗せてのりでまいたものをspam musubiと呼んでいる。これも人気がある。アラモアナセンターにMakai Food Courtがあるが、そこには世界各国（主としてアジア諸国、メキシコ、イタリア）の食べ物が売られている。日本のお店はそば屋と寿司屋とラーメン屋がある。中国料理は人気がある。ハワイではsaimin（細麺）も人気がある。この麺のスープは海藻や魚をだしにしている。ハワイではmanapua（マナプア）という肉まんが売られている。プアはハワイ語で豚だからさしずめ豚まんといったところであろう。かき氷はshave iceとして売られている。日本人が機械をもちこんだのであるが、オアフ島のNorth Shore（ノースショア）に近いHaleiwaのAoki やMatsumotoのかき氷が有名である。

ハワイの伝統的な食べ物としてpoiがあるが、これはkalo（タロー芋）の澱粉をペースト状にしたもので紫色をしている。味つけをしないのでおいしいものではない。luau（ハワイ式宴会）によく出るlauauはバナナなどの葉にmahimahi（しいら）や豚の肉を包み熱い砂に中に入れて、その上に熱い石を乗せて蒸し焼きにしたものである。

ハワイのバナナはapple bananaという種類でとても甘い。オアフ島の裏側をLeeward OahuとかWindward Oahuと呼んでいるが、バナナ園は裏オアフに多い。熱帯の果物としてpapaya（パパイア）とmango（マンゴー）が人気がある。パイナップルはドール会社が独占している。passion fruit（パッションフルーツ）やguava（グアバ）はジュースに使われている。魚はmahimahiの他にaku（かつお）、ahi（きはだマグロ）、opakapaka（鯛）などが食材として使われている。

9 ハワイの動植物

動物についてはワイキキのはずれのカピオラニ公園にあるホノルル動物園を訪問するとよい。魚類についてはワイキキ水族館とSea Life Parkがよい。植物に関してはダウンタウンにあるFoster Botanical Gardenがよい。また、ハワイ大学のキャンパスの樹木には名札がついているので観察できる。ハワイ固

有種としてnene（ハワイがん）が有名である。マングースはねずみを捕らせるために導入されてが、現在野生化している。爬虫類ではgecko（やもり）がよく見られる。green anoleはもちこまれたものである。蛇は生息していないが蛙は少ないがいる。鰐はペットとして飼われていたものが貯水池で発見されて大騒ぎになったことがある。亀はhonuという名があるように海亀がいる。マウイ島のラハイナはかつて捕鯨船の寄港地として栄えたが、現在はマウイ島はwhale watchingで有名である。なお、オアフ島ではshark watchingといってcageの中で鯨を見るコースがある。鳥類では雀が多い。フィンチの他に鳩類が多い。小型のmynah（九官鳥）やBrazilian cardinalがよく見られる。全身が真っ赤なcardinalは稀にしか見かけない。ハワイ大学のキャンパスの芝生でよく見かけるpaddy bird（文鳥）は約50羽の群れを作っている。

Hawaiian honeycreeper（ハワイみつすい）はその羽根が王族のガウンや帽子に使われたために絶滅に瀕している。羽の色は赤，黒，黄色がある。13属23種のうち16種は絶滅したようである。日本からのうぐいすやめじろがハワイで解き放たれた。うぐいすは繁殖できなかったが、めじろは増え続けている。昆虫はtermite（シロアリ）とごきぶりが繁殖している。とんぼはぎんやんま，やんま，うすばきとんぼなど種類は多くない。チョウ類も少ない。kamehameha butterfly（またはmonarch）はオオカバマダラのことときどき見かける。植物ではhibiscus（ハイビスカス），プルメリア，bougainvillea（ブーゲンビリア），oleander（夾竹桃）などがよく見られる。shower tree（シャワー・ツリー）はマメ科の木でrainbow shower treeとgolden shower treeがある。合歓の木に似たmonkeypodの木は大木になる。African tulip treeはオレンジの花を咲かせる。蘭の栽培は盛んでcattleya（カトレヤ）は美しい。火山の乾燥した場所にsilversword（銀剣草）を目にする。不思議な植物である。

10 ハワイの風俗と習慣

ハワイのhulaは海外でも人気がある。ハワイ語の歌に合わせて踊る。lei（レ

イ) は蘭で作られたものが一番人気がある。plumeria (プルメリア) や carnationで作ったものもある。一つ8ドルほどする。kukui nutや貝で作ったものもある。現在は布で作ったものもある。女性は花を耳に挿す。未婚の女性は右の耳に、既婚の女性は左の耳に花を挿すことになっている。ハイビスカスはハワイ州の花なので女性に人気がある。女性も男性もnecklaceやbraceletをつける習慣がある。necklaceには白いpuka shellが好まれる。

ハワイの人のジェスチャーはhula danceでいろいろ見られるが、独特のしぐさとしてshakaがある。これは親指と小指だけ立ててあとの指を曲げるしぐさで、good やgood-byeを意味する。

ハワイでは玄関ではきものをぬぐ。家の中では靴をはかないのが普通である。この習慣は日本人の習慣に由来するものであろう。trade wind (貿易風) の影響でハワイの気温は平均して27度で冷房を必要としない家も多い。

最後にハワイの迷信を紹介する。

- 1) 家にgeckoが住みつくと幸運になる。
- 2) lehuaの赤い花を摘むと雨が降る。
- 3) 火山の石はもちかえってはいらない。もちかえると不幸になる。

火山の女神のPeleの怒りをかいたくないのである。

- 4) 庭に木を植えるのはよいことである。

参考文献：

- Friedman, Bonnie and Paul Wood. (1998) Hawaii. (New York: DK Publishing)
- Pukui, Mary K. (1977). The Pocket Hawaiian Dictionary. (Honolulu: University of Hawaii Press)
- Schutz, Albert J. (1995). All About Hawaiian. (Honolulu: University of Hawaii Press)